



ホームページや電子メールの作成も鉛筆と紙での作文で済ませられるものが多かった。また、単に話題としてコンピュータが取り上げられているだけのものも多かった。つまり、コンピュータを全く利用しなくても済むものがほとんどであった。

#### 4. 考察

2005年度末までには、普通教室にも教員用、生徒用各1台のコンピュータが整備され、すべての授業でコンピュータを利用することができる予定である。一方、コンピュータ教室の整備も進み、2003年3月末現在、1校当たり平均1.8室のコンピュータ教室が設置されており、情報以外の教科でコンピュータ教室を利用することが可能である（文部科学省2003）。つまり、通常は普通教室で教員、生徒が各1台利用し、必要に応じてコンピュータ教室に移動して生徒全員が利用するという形態が考えられる。

教科書に沿ってコンピュータを最大限利用すると、図1のような教室の利用が想定できる。しかし、これではコンピュータを英語学習に十分に役立てていないし、情報教育の一役を担っているともいい難い。コンピュータを整備した目的とは大きなギャップがある。

例えば、外国の文化など言葉だけでは説明しにくいものを、インターネットの画像、映像などを利用して教員が説明したり、生徒に作文をワープロで行わせたりするなど、教科書に明記されていないことでも、コンピュータの活用を考え、積極的に利用する必要がある。

#### 5. 結論

普通教室では、チョークをかぶったオーバーヘッド・プロジェクターに代わってコンピュータが設置される一方、使い方のわからなくなったLL教室の代わりにコンピュータ教室が整備されてゆく。今回のコンピュータの整備が無駄にならないためには、教科書に記述されていることを行うだけでは不十分であり、コンピュータを活用するための教材、指導方法を教員に提供していくことが不可欠である。

#### 注

1. ほかのOCの教科書には、コンピュータ関連事項が記述されているものがある（入江2004）。

#### 引用文献

- 入江公啓. (2004). 「英語と情報の教科書の表記上の情報化」 『常葉学園大学研究紀要（教育学部）』 第24号 pp.283-293.
- 文部科学省. (2003). 『学校における情報教育の実態等に関する調査結果』. (オンライン)  
[http://www.mext.go.jp/b\\_menu/houdou/15/07/03070501.htm](http://www.mext.go.jp/b_menu/houdou/15/07/03070501.htm).
- 文部科学省. (2002). 『情報教育の実践と学校の情報化～新「情報教育に関する手引」』. (オンライン)  
[http://www.mext.go.jp/a\\_menu/shotou/zyouhou/020706.htm](http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/zyouhou/020706.htm).

図1. 教科書のコンピュータ関連事項の実践

普通教室	コンピュータ教室
教員または生徒の代表が <ul style="list-style-type: none"> <li>● 電子メールを紹介する</li> <li>● 電子メールを書いて送る</li> <li>● インターネットで検索する</li> <li>● ホームページを紹介する</li> <li>● ホームページを作成する</li> </ul>	生徒が一人またはグループで <ul style="list-style-type: none"> <li>● 電子メールを書いて送る</li> <li>● インターネットで検索する</li> <li>● ホームページを作成する</li> </ul>